令和２年度 農作物病害虫	防除対策情報　第９号	令和２年９月29日 秋田県病害虫防除所

ねぎ(秋冬どり）の黒斑病・葉枯病の発生が多い

～　10月前半まで約10日間隔で重点的に薬剤散布しましょう　～

１．現在までの発生状況

９月４半旬の巡回調査（全県10地点）における黒斑病・葉枯病の発病株率は21.3％（平年9.0％）でいずれも高かった（図-１）。

９月24日に仙台管区気象台から発表された東北地方１か月予報によると、向こう１か月の気温は高い、降水量はほぼ平年並と予報されており、今後も被害拡大が懸念される。

２．防除対策

ア、発病程度が大きい場合は、生葉数が減少し、収量(肥大)への影響が懸念される。また、葉枯病が原因となる黄色斑紋病斑は収穫物の品質低下を招くことが多いため、10月前半まで約10日間隔で重点的に薬剤散布する(表-１)。

イ、べと病やさび病の病斑への感染や害虫による被害は、黒斑病・葉枯病の発生を助長するため、それらの防除も行う。

ウ、ＱｏＩ剤（ストロビルリン系剤)、ステロール生合成阻害剤（ＥＢＩ剤)、コハク酸脱水素酵素阻害剤（ＳＤＨＩ剤）は、耐性菌出現回避のため連用を避ける。

エ、収穫前日数に注意して、薬剤を選定する。

オ、被害残さは、翌年の伝染源になるため適正に処分する。

３．資料

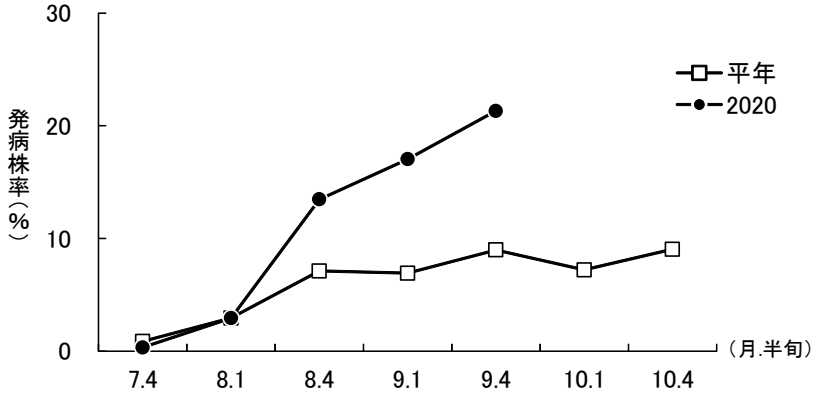

図-１　巡回調査における黒斑病・葉枯病の発病株率の推移(全県)

表-１　ねぎの黒斑病・葉枯病の防除薬剤

分 類	農薬名	希釈倍数	使用時期	本剤の使用回数	各成分の総使用回数	黒斑病	葉枯病	散布液量
Ｊ	パレード20フロアブル	3,000倍	収穫前日まで	３回以内	３回以内*1	○	○	生育量に応じて100～200Ｌ/10aとする。
Ｓ	アミスター20フロアブル	2,000倍	収穫３日前まで	４回以内	５回以内*2	○	○	
Ｓ	ストロビーフロアブル	2,000倍	収穫７日前まで	３回以内	３回以内	○		
Ｅ	ダコニール1000	1,000倍	収穫14日前まで	３回以内	４回以内*3	○	○	
B･K	テーク水和剤	600倍	収穫14日前まで	３回以内	ア イ	○	○	
Ｂ	ジマンダイセン水和剤	600倍	収穫14日前まで	３回以内	ア	○		
Ｂ	ペンコゼブフロアブル	600倍	収穫14日前まで	３回以内	ア	○		

Ｂ：有機硫黄剤、Ｅ：有機塩素剤、Ｊ：コハク酸脱水素酵素阻害剤（ＳＤＨＩ剤）、Ｋ：ステロール生合成阻害剤（ＥＢＩ剤）、Ｓ：ＱｏＩ剤（ストロビルリン系剤）

*1：但し、灌注は１回以内
*2：粒剤は１回以内、水和剤は４回以内
*3：土壌灌注は１回以内、散布は３回以内

※同一符号は同一成分が含まれていることを示す。
ア：マンゼブ（３回以内）　イ：シメコナゾール（３回以内(は種時は１回以内））

アミスター20フロアブルは近接散布するとねぎを湾曲させる薬害を生じる場合があるので、散布間隔を２週間以上とる。
ストロビーフロアブルは浸透性を高める展着剤を混用すると薬害を生じる場合があるので、展着剤の加用に当たってはその適否を確認する。

【　問合せ先　】
秋田県病害虫防除所　℡ 018-881-3660
秋田県農業試験場　℡ 018-881-3326
掲載HP https://www.pref.akita.lg.jp/bojo/